

文京区立森鷗外記念館 平成28（2016）年度コレクション展

「賀古鶴所という男／一切秘密無ク交際シタル友」

会期／2016年12月9日（金）～2017年1月29日（日） 会場／文京区立森鷗外記念館地下1階 第2展示室

	資料名	資料番号／所蔵
参考図版	「医術開業免状出願」明治14年12月27日付	東京都公文書館蔵
図書	『産婦備用 完』パイペル著 賀古鶴所訳補 後凋閣 明治20年9月	3-カ106-2
図書	『耳之衛生』賀古鶴所講術 中川恭次郎編 博文館 明治41年3月	3-カ106-1
資料	「賀古鶴所 名刺」	100253
参考図版	「東京朝日新聞」明治29年10月1日 6面より	国立国会図書館蔵
写真	「神田小川町 賀古耳科院」	複製・額田記念東邦大学資料室蔵
雑誌	「新撰 東京名所図会」21編 東陽堂 明治32年8月	1F-73
雑誌	「国民之友」第69号 民友社 明治23年1月3日	1F-ユ2
写真	「森鷗外」明治19年頃	複製・学校法人北里研究所蔵
写真	「賀古鶴所」明治22年	複製・学校法人北里研究所蔵
雑誌	「文学」4巻6号 岩波書店 昭和11年6月	4-76
参考図版	『塵冢』鷗外自筆より	東京大学総合図書館蔵
図書	『鷗外の子供たち』森類著 光文社 昭和31年12月	2-モ5-1
図書	『南天荘次筆』井上通泰著 弘文荘 昭和11年6月	3-イ75-2
参考図版	「読売新聞」明治40年3月19日 5面より	国立国会図書館蔵
参考図版	図書『文士政客 風聞録』怪庵編 大学館 明治33年1月より	国立国会図書館蔵
参考図版	「鷗外筆 中村不折宛」明治42年1月20日付	台東区立書道博物館蔵
写真	「学生時代」	複製・森鷗外記念館（津和野）蔵
自筆原稿	「キタ・セクスアリス」校正刷 鷗外書入	200002
参考図版	雑誌「衛生療病志」16号 医事新論社 明治24年4月より	東京大学医学図書館蔵
書簡	「鷗外筆 賀古鶴所宛」明治42年8月1日付	401093
雑誌	「スバル」7号 昂発行所 明治42年7月	複製・4-ス1
雑誌	「新潮」13巻第15号 新潮社 明治43年11月	1F-ソ8
写真	「和服姿の鷗外」明治14年	複製・300167
書簡	「鷗外筆 賀古鶴所宛」明治14年11月20日付	401030
写真	「山県有朋欧米巡回」明治22年3月	複製・個人蔵
参考図版	「東京朝日新聞」明治21年11月20日 2面より	国立国会図書館蔵
原稿	「賀古鶴所歌稿」明治38年	100089
日記	「徂征日記」浄写本 明治27～28年	200130
図書	『軍医森鷗外』山田弘倫著 文松堂 昭和18年6月	3-ヤ4-1
葉書	「同窓会一同寄書き 鷗外宛」明治39年5月17日付	506006
記念品	『卒業二十五年記念写真帖』里見博栄舎謹製 明治39年12月	100255
写真	「軍医学校創設二十五周年」明治43年6月21日（『陸軍軍医学校五十年史』 陸軍軍医学校 昭和11年11月より）	複製・3-リ2-1
書簡	「賀古鶴所筆 鷗外宛」大正4年12月5日付	405063
図書	『常磐会詠草』初篇、5篇 歌学書院 聚精堂 明治42年、大正6年	1A-ト2
葉書	「賀古鶴所筆 鷗外宛」明治44年11月15日付	505190
書簡	「賀古鶴所筆 鷗外宛」大正10年11月4日付	405134
書簡	「鷗外筆 賀古鶴所宛」大正10年11月7日付	401146
書簡	「賀古鶴所筆 鷗外宛」大正5年4月14日付	405065
記念品	西園寺公望書「才学識」扁額 大正5年	100024
書簡	「賀古鶴所筆 森静男宛」〔明治21年〕1月18日付	407003
写真	「父静男の一周忌記念」明治30年4月	300022
参考図版	「賀古鶴所筆 賀古カツラ宛」明治38年6月29日付	個人蔵
雑誌	「芸林間歩」21号 洗心書林 昭和23年4月	4-ケ3
書簡	「賀古鶴所筆 鷗外宛」大正6年5月14日付	405095

参考図版	「東京日日新聞」大正6年5月15日 6面より	国立国会図書館蔵
写真	「賀古啓子」	複製・個人蔵
書簡	「賀古鶴所筆 鷗外宛」大正8年12月24日付	405110
書簡	「賀古鶴所筆 鷗外宛」大正8年12月27日付	405111
写真	「神田小川町 賀古の庭」昭和5年1月5日	複製・個人蔵
参考図版	「鶴荘」扁額	いすみ市郷土資料館蔵
書簡	「鷗外筆 賀古鶴所宛」明治42年1月18日付	401092
図書	『木芙蓉』森於菟著 時潮社 昭和11年9月	2-㉟3-10
図書	『分身』森林太郎著 靄山書店 大正2年7月	1A-㉟3-2
書簡	「鷗外筆 賀古鶴所宛」大正11年5月13日付	401149
図書	『森鷗外の系族』小金井喜美子著 大岡山書店 昭和18年12月	復刻・2-㉟1-5
雑誌	「明星」2巻3号 明星発行所 大正11年8月	復刻・4-㉟4
参考図版	「東京朝日新聞」大正11年12月12日 1面より	国立国会図書館蔵
図書	『鷗外全集』第5巻 鷗外全集刊行会 昭和2年8月	1E-㉟1
写真	「賀古鶴所」昭和2年	300056
図書	『父親としての鷗外』森於菟著 筑摩書房 昭和44年12月	2-㉟3-16
図書	『鷗外の思ひ出』小金井喜美子著 八木書店 昭和31年1月	2-㉟1-1
書簡	「賀古鶴所筆 森於菟宛」昭和5年7月8日付	407006

賀古鶴所略年譜

	略歴（年齢は満年齢）	
安政3年 1856	0歳／2月2日（諸説あり）、遠江浜松藩（現・静岡県浜松市）に生まれる。父・賀古公斎は浜松藩医、母はカネ子。5人兄弟の長男。幼名銀弥。号松雲。	
明治2年 1869	13歳／藩主が上総国内へ転封となる（鶴舞藩として廃藩置県まで存続）。一家はそれに従い、現在の千葉県市原市に移る。	
明治3年 1870	14歳／藩の貢進生として上京する。箕作秋坪（蘭学者）の塾に学ぶ。	
明治4年 1871	15歳／大学東校（後の東京大学医学部）に入学する。	
明治10年 1877	21歳／陸軍軍医委託生となる。	
明治14年 1881	25歳／6月、柳慎斎（医師）の四女・啓子と結婚する。7月、東京大学医学部を卒業する。8月、陸軍軍医副に任官し、東京陸軍病院課僚となる。	
明治15年 1882	26歳／4月、『歇爾曼氏生理学』1、2 ケルマン著、賀古鶴所訳 刀圭書院発行。	
明治18年 1885	29歳／11月、病に掛り入院、手術を受ける。翌年11月まで病臥する。	
明治19年 1886	30歳／3月、医務局副課員兼軍医学舎教官となる。	
明治20年 1887	31歳／9月、『産婦備用』パイペル著、賀古鶴所訳補 後凋閣発行。	
明治21年 1888	32歳／3月、医務局課員兼陸軍大学校教官（兼軍医学舎教官）となる。11月、山県有朋（陸軍中將、内務大臣）の欧米諸国巡回の随行となる。翌月、フランスに向け出発。	
明治22年 1889	33歳／パリの医師シャッテリエ、次いでベルリン大学にて2ヶ月間、耳鼻咽喉科学を学ぶ。10月、帰国する。2月、父・公斎、逝去する（70歳）。	
明治23年 1890	34歳／2月、日本赤十字病院で耳科咽喉科の外来診療を開始する。	
明治24年 1891	35歳／自宅に仮診療所を設ける。	
明治25年 1892	36歳／東京市神田区小川町に「賀古耳科院（後の賀古病院）」を開設し、公務の傍ら診療に従事する。	
明治26年 1893	37歳／2月、『耳科新書』前編 賀古鶴所編刊（翌年同月、後編）発行。	
明治27年 1894	38歳／10月、日清戦争のため、第一師団第二野戦病院長として、戦地に赴く。	
明治28年 1895	39歳／5月、陸軍一等軍医正、臨時陸軍検疫部事務官となる。	

明治29年 1896	40歳／3月6日、第五師団軍医部長となる。同月19日休職となる。同月24日、正六位に叙せられる。
明治30年 1897	41歳／陸軍二等軍医正となる（陸軍武官官等表改正）。
明治34年 1901	45歳／3月、予備役編入。4月、正五位に叙せられる。
明治37年 1904	48歳／3月、日露戦争のため、第二軍兵站軍医部長として、戦地に赴く。8月、陸軍一等軍医正となる。9月、遼東守備軍軍医部長となる。
明治38年 1905	49歳／1月、旅順要塞整理委員となる。
明治39年 1906	50歳／2月、第一師団司令部付となる。9月、召集が解除される。陸軍軍医監となる。山県有朋の発意で常磐会を設立、鷗外と共に幹事となる（大正11年2月まで）。
明治41年 1908	52歳／4月、『耳之衛生』賀古鶴所講述 中川恭次郎編 博文館発行。
明治44年 1911	55歳／恩賜財団済生会病院の発起人の一人となる。
大正2年 1913	57歳／4月、共に暮らしていた姪・カツラ、額田晋（医学士）と結婚する。
大正3年 1914	58歳／5月、退役となる。11月、母・カネ子、逝去する（88歳）。
大正6年 1917	61歳／5月、妻・啓子、逝去する（54歳）。
大正8年 1919	63歳／12月、賀古病院が火災に遭う。
大正11年 1922	66歳／7月9日、親友・鷗外逝去。6日に遺言を口述筆記する。11月、『鷗外全集』編輯同人総代の一人となる。
大正12年 1923	67歳／9月、賀古病院が類焼する（翌年には復旧）。
昭和6年 1931	75歳／1月1日、脳溢血で倒れ、逝去する。駒込吉祥寺に埋葬される。法名・翠巖院玄雲鶴所居士。

主な参考文献

賀古鶴所略年譜／松原純一著（「鷗外」2号 森鷗外記念会 昭和41年3月）、
 鷗外詩書二三／賀古弓弦著（「鷗外」9号 森鷗外記念会 昭和46年6月）、
 鷗外の友人・賀古鶴所／澤井清著（「宮城学院女子大学研究論文集」55号 昭和56年12月）、
 賀古鶴所／額田煜著（「日本医事新報」3441号 平成2年4月7日）、
 森鷗外の親友 軍医・耳科医たる賀古鶴所／木村繁著（「第19回足立医学会論文集」平成16年2月14日）、
 耳鼻咽喉科学のバイオニア 日本編2 賀古鶴所／木村繁著（「JOHNS」26巻9号 平成22年8月）

常設展示

原稿	『自紀材料』1, 2, 3（復刻版）	1E-77
写真	津和野より上京の頃 明治5年10月頃	300005
図書	『西周伝』西紳六郎発行 明治31年	1A-21
資料	「進文学社日課表」（レプリカ）	東京都公文書館蔵
写真	「鷗外と潤三郎」明治14年5月23日	300008
参考図版	「読売新聞」明治14年7月10日、同年月12日 各1面より	国立国会図書館蔵
資料	「留学の辞令」（レプリカ）明治17年6月7日付	国立公文書館蔵
記念品	依田百川書「送森軍医遊伯林序」書幅 明治17年8月	100032
原稿	『独逸日記』浄写本	複製・R200177
記念品	「ジョッキ」	複製・R100189
記念品	「RMモノグラム型板」	複製・R100190
資料	「森一等軍医結婚ノ儀ニ付申進」明治22年3月4日付（レプリカ）	防衛研究所図書館蔵
図書	『文づかひ』（自筆復刻）大阪樟蔭女子大学図書館 昭和64年	1E-710
雑誌	「しがらみ草紙」新声社 明治22年10月創刊	復刻・4-766
記念品	「日清戦争実記」博文館 明治27年8月創刊	1F-23
雑誌	「めさまし草」盛春堂 明治29年1月創刊	復刻・4-73
葉書	「幸田露伴筆 鷗外宛」明治23年10月29日消印	505240
書簡	「鷗外筆 賀古鶴所宛」明治30年月不詳31日付	401046
原稿	『小倉日記』浄写本	複製・R200185
図書	『隊付軍医宿直ノ件』 明治33年12月20日	1A-74

資料	「陸軍軍医監医学博士森林太郎結婚願ノ件」明治35年3月6日 (レプリカ)	国立公文書館蔵
書簡	「鷗外筆 賀古鶴所宛」明治35年2月8日付	複製・R401196
図書	『即興詩人』上・下巻 春陽堂 明治35年9月	復刻・1E-75
図書	『うた日記』春陽堂 明治40年9月	復刻・1E-78
雑誌	「スバル」昂発行所 明治42年1月創刊	復刻・4-71
雑誌	「三田文学」三田文学会 明治43年5月創刊	復刻・4-711
写真	「与謝野寛送別会」上野精養軒にて 明治44年11月4日	複写・300039
原稿	『豆打』鷗外自筆	複製・R200225
原稿	『ながし』鷗外自筆	複製・R200221
図書	『沙羅の木』阿蘭陀書房 大正4年9月	1A-73
記念品	「鷗外自画素焼皿」大正2年1月	100016
記念品	「扇子 山県有朋短歌書入」大正6年	100025
図書	『高瀬舟』春陽堂 大正7年2月	1A-71
書簡	「鷗外筆 茉莉・杏奴・類宛」大正7年11月11日付 (レプリカ)	ベルリン森鷗外記念館蔵
資料	「医学博士文学博士森林太郎外十三名帝国美術院長並同会員 被仰付ノ件」大正8年9月6日付 (レプリカ)	国立公文書館蔵
記念品	「名刺」「紙幣」	100101、100103~100105
遺言書	「遺言書」賀古鶴所筆記 大正11年7月6日付	複製・200226R
葉書	「上田敏筆 鷗外宛」明治40年4月5日消印	505116
葉書	「与謝野寛筆 鷗外宛」明治40年10月4日付	505440
葉書	「石川啄木筆 鷗外宛」明治41年6月9日付 (レプリカ)	複製・505487R
葉書	「伊藤左千夫筆 鷗外宛」明治40年3月26日付	505052
葉書	「古泉千樞筆 鷗外宛」明治42年10月2日付	505235
葉書	「木下杢太郎筆 鷗外宛」明治42年5月8日付	505221

文の京ゆかりの文化人顕彰事業関連 ミニ企画展示

没後一〇〇年上田敏「海潮音の韻—上田君と僕」^{ひびき}

	資料名	資料番号／所蔵
参考図版	「読売新聞」大正3年4月24日 4面	国立国会図書館蔵
雑誌	「めさまし草」巻之6 盛春堂 明治29年6月	復刻・4-73
雑誌	「芸文」文友館 明治35年6月創刊	1F-71
雑誌	「万年艸」万年草発行所 明治35年10月創刊	1F-71
図書	『海潮音』上田敏著 本郷書院 明治38年10月	復刻・館蔵
葉書	「上田敏筆 森篤次郎宛」明治39年1月18日付	507030
葉書	「鷗外ほか寄書 森潤三郎宛」明治39年1月21日消印	501185
記念品	「水差し」上田敏旧蔵	100259
図書	『現代の芸術』上田敏著 実業之日本社 大正6年5月	1C-75
原稿	「上田敏蔵書目録」鷗外自筆	200097
記念品	「九日会寄書色紙」[昭和5年7月9日]	100039
記念品	「九日会寄書」昭和7年7月9日	100037

謝辞

本展覧会にあたり、多大なる御協力を賜りました関係各位、
またお名前を記すことのできなかった方々にも深く感謝の意を表し、心より御礼申し上げます。

いすみ市郷土資料館／学校法人北里研究所／国立国会図書館／台東区立書道博物館
東京大学医学図書館／東京大学総合図書館／東京都公文書館
額田記念東邦大学資料室／文京ふるさと歴史館
森鷗外記念会／森鷗外記念館（津和野）

【敬称略・五十音順】

※本展示には、今日においては不適切と思われる表現・用語が使用されている箇所がありますが、
著者の表現・表記を尊重する立場から原資料のままとしました。